

エコ・カレッジ通信は毎月(第3火曜日)定期開催される北海道 GPN エコ・カレッジカフェでの学生・企業の環境活動等の取組事例を紹介します。今回第7号はエコ・カレッジカフェ第7回目(6月16日、会場アースカフェ・インザグループ、参加者約35人)の発表内容を掲載します。



北海道水環境コースWACCA

「世界ユース水フォーラム参加報告」
北海道大学理学部二年 青江 翔太郎 君

団体は、エコ・カレッジ第1回に続き2回目の発表です。世界水フォーラムとは、世界中の水問題を研究するシンクタンクである「世界水会議」が、各国政府や国際機関の協力のもと、3年に1度開催している国際会議。

(NPO 法人 AM ネット HP より抜粋)

【目的】

- 政治的課題としての水の重要性の啓発
- 国際的水問題の解決に向けての議論
- 政治的な参加を生み出す

(World Water Council HP より抜粋)



【第5回世界水フォーラム概要】

- 開催地:トルコ
- 開催日時:3/16~22
- 全体参加者:約33,000人
- 参加国:155カ国
- 参加首脳級:8人
- 参加国会議員:263議員
- 参加閣僚級:95人の大臣・副大臣
- 開催セッション数:100以上
- 開催サイドイベント数:105



【水フォーラム構成】

- メインフォーラム……閣僚、国会議員、専門家などが参加
- ユースフォーラム……16から26歳の若者が参加
- 子供フォーラム……ユース以下の年齢層子供たちが参加
- EXPO……各国に企業や、団体が培ってきた技術や取組を展示するイベント

議論の内容

- ・Theme1:地球規模の変化とリスク管理
- ・Theme2:開発の促進とミレニアム開発目標
- ・Theme3:水資源の管理と保全
- ・Theme4:統治と管理
- ・Theme5:財政
- ・Theme6:教育,開発,知識,能力開発

世界ユース水フォーラム

- ・**開催日時** 3年に1度世界水フォーラムと同時開催
- ・**参加者** 数百名(開催国が多数派)
- ・**参加年齢** 15~30才程度
- ・**運営者** 開催地のユースの団体
- ・**世界水フォーラムとの関わり**
ユースの宣言文発表、セッションへの参加
- ・**運営者によって、毎回内容が大きく異なる。**



第4回世界ユース水フォーラム概要

- 参加者:約 300人
(16歳~26歳)
- 日時:3/16~3/20
- 目的:自分の意見や経験を将来の仲間と共有する。

アクションプラン

ユースの活動を充実させるために実際にアクションに起こした計画。

- ・ヒューマンウェーブ
 - 目的:ユースの存在感をフォーラム参加者全体に示す
 - 成果:多くのメディアがこのアクションを取り上げ十分にユースの存在感を示すことができた。

宣言文

メインフォーラムの6つのテーマについてユースの視点からの意見をまとめた宣言文。



いくつかのチームがいくつかのミーティングを重ねて、まとめ上げた宣言文をメインフォーラムメインフォーラムの大々的な場で発表しました。これでメインの場にも私たちが作り上げた宣言文を発表し、ユースの意見を全世界に向けては発表することができました。

日本人コースの取組



日本からは今回、北は北海道、南は九州まで総勢12人のコースが参加した。

参加コース団体: WACCA(北海道)、TOMY(東京)、SAGE(京都)、JOC(九州)

■ 日本人コースの活動

1. 地図ワークショップ
2. アンケート
3. ブログ

1. 地図ワークショップ(水問題が深刻な所はどこ?)



これは視覚的に一目で見てわかるアウトプットを得られないかということで、ある質問に対し、地図にシールを張ってもらうという形で質問に答えてもらい視覚的に水問題に関するコースの考えを見られるようにするためにを行いました。

特徴

- ・数多くのコースがインドにおける水問題が深刻だと思っている。

2. アンケート

- 目的: 海外コースの考えを知る
 - 内容
 - ・ 水教育は必要か?
 - ・ 何の水問題に関心があるか?
- など水に関する質問

アンケート結果は後にブログで公開予定



3. ブログ

- 目的: 世界コース水フォーラムを日本人にも知ってもらう。
- 内容: 現地でリアルタイムでその日のできごとをブログで更新。

3年後に過去の自分がどのような思い出フォーラムに参加していたかを振り返ることができ、反省ができ次回につなげるためのアクションとなります。



EXPO

- ・水の企業、公共機関、NGO が自分たちの取り組みを発信して新たなビジネスチャンスを生む。
- ・総計で 6000 人以上の来場者があった



フォーラム後の進展

- ・全国 MEET 企画 in 北海道
- ・大学生等交流会 in 九州
- ・報告書作成
- ・Water Festival



株式会社北海道アルバイト情報社 (HAJ)

「北海道アルバイト情報社の木づかい運動」について
森末 忍 氏

HAJ の事業展開について 求人情報誌の発行



求人 WEB サイトの運営



その他



HAJ 木づかいの取組 2005 年までの環境問題への取組模索期
[NPO 法人エコロジーオンラインとの連携](#)

環境省・林野庁、北海道、各企業・団体と連携
環境問題をできる限り俯瞰して眺め、HAJ 事業との文脈を模索
4R、エネルギー、**間伐材 紙**

HAJ 木づかいの取組 パルプ・印刷用紙に関する情報の収集

- 1 自分たちはどんな用紙(パルプ)を使用しているのだろうか？ 森林認証紙という存在はあるがハードルは高い
- 2 出所がはっきりわかるパルプを使えないのだろうか？ 森林認証紙という存在はあるがハードルは高い
- 3 北海道の森林から生み出されるパルプは使えないのだろうか？ ハードルは高いが、**手だてはある！**

地道に自社の紙の CSR 的な調達を目指していこう！

企業活動と、地域の元気の両立！

HAJ 木づかいの取組 木づかいの取組のスタート

2006.4 ~ 道産間伐材コピー用紙の利用開始



- 2006.4 ~ 35周年ノベルティとして、
道産間伐材配合のコピー用紙(メモ帳)を配布
- * 道産間伐材を実際に消費する
- * ステークホルダー(顧客)とともに考える場(機会)を作る



- * すべてに道産間伐材配合紙を使用

- 2006.5 ~ 趣旨に賛同してくれた北海道出身のシンガーソングライター田野崎文さんとタイアップし、「森にまくコトバの種」という求人誌内の連載と、彼女のFM Air-Gの番組内のコーナーを開始

- * ステークホルダー(読者)とともに考える場(機会)を作る
- * 木に関して学び続ける

- 2006.9 田野崎さんと社員とともに、下川町で間伐体験を行う

連載・FM番組で報告

- * ステークホルダー(読者)とともに考える場(機会)を作る
- * 木に関して学び続ける

- 2006.11 田野崎さんのグリーンライブを開催
参加者の「グリーンチャージ」を下川町へ寄付

- 2006.7 北海道森林マラソントレイルフェスティバルに協賛 道産間伐材配合紙を使用したパンフ・プログラムの制作提供

- 2006.8 RISING SUN ROCK FESTIVAL に協賛 道産間伐材を利用したブースを制作



2006.5 ~ 求人誌で [3.9 ペーパー](#) を活用開始



2009 年現在も継続実施中

2006.8 ~ シゴトガイド各誌でエージズ(道産間伐材配合紙)を順次採用



2008 年半ばまで使用

2007. ~ 用紙調達関係者を中心に、間伐体験など、社内における活動理解を促進



2007 ~ 2008 北海道の「地材地消セミナー」などで、企業の取組事例として、HAJ「木づかい運動」をプレゼンテーション。

2009 ~ 年 5 回 HAJ の「木づかいウイーク」を設定し、3.9 ペーパーの利用と共に、社内外のステークホルダーへの働きかけを企画。

7/15 カーボンオフセットセミナーを開催

木づかいの取組の基本的な考え方

- ・印刷用紙の原料としての木(森)への配慮 木の循環型利用へ
- ・地域社会との共生 北海道の健全な森林づくり & 元気な地域づくり

木づかいの取組のポイント

- ・木について学び続ける。
情報収集 & 体感 ~ そのために様々なネットワークと連携
(林野庁・北海道、森林組合、関連企業、NPO・・・)
- ・自ら使うべき木を消費する。
地域材・間伐材・・・
- ・ステークホルダー(関係者)と共に考える。
今、我々がなすべき事は何なのか

木づかいの取組の今後

- ・北海道が森林を核として豊かになるべく環境と経済の両立を目指していきたい。

「社会の利益」と「会社の利益」の両立を目指す！

連絡先: 株式会社 北海道アルバイト情報社
TEL 011-223-3670 FAX 011-223-3667
URL <http://www.haj.co.jp/>

次回開催

7月21日(火)北海道GPNエコ・カレッジカフェ第8回 18:30～

発表予定者

- ・学生団体
- ・エコライン(株)
- ・北海道グリーン購入ネットワーク(北海道GPN)

会場:アースカフェ・インザループ(札幌市北区北14条西3丁目ル・ソレイユ1階)



事例発表者、参加者大募集！！

(エコ・カレッジ通信、開催当日の様子はウェブサイトからご覧いただけます)

詳しくはこちらまで

作成:北海道 GPN 事務局(担当 大内)

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西14丁目2-3

連絡先:TEL 011-222-0234 FAX 011-222-0235

E mail : staff@hokkaido-gpn.org

URL : <http://www.hokkaido-gpn.org/>